



樋口 重喜 議員

村政2期目に向けた政治姿勢について 村民目線での質問や提案した政策の進捗状況や 来年度に向けた方針、見通しについて

◎ 村長は、村政推進にあたり、融和を基本姿勢とするというが、具体的内容を伺いたい。「融和と團結」のスローガンは、前回の村長選で、私があなたに託した政治目標だが期待外れだった。この度の選挙結果は、50・1対49・9の僅差で、4年間の信任率は44%である。政治姿勢や政策の見直しの再検討が必要だが、見解を伺う。

村長 高村 文教

私の基本姿勢である融和は、対立ではなく、融和を意味している。また、選挙の結果については、村民の声として謙虚に受け止めている。従前どおり、村民目線で村の将来像実現に向け、村政を推進したい。議員および村民、村職員、各種団体等の協力が不可欠だ。今後ともご協力をお願いしたい。

◎ 答弁に体温が感じられない。村長に投票しなかった者を排除している。僅か0・1%の差で二分された村を真に「融和と團結」に向ける使命がある。支持者だけでなく、全村民を対象に膝を交えた「車座的対話集会」の実現や、行政の職人である職員個々と温かい信頼構築への努力を、再提案する。

村長 高村 文教

提案を謙虚に受け止め、二期目も一生懸命頑張りますので、二層の指導、ご鞭撻をお願いしたい。

◎ 今まで村民目線で14の政策提

案をした。次の7事案について、来年度に向けた方針や見直しを伺う。

① 防災行政について

住民の安否確認の実態は半数だけだ。他の村民や観光客など来村者へも何ら対応策が行われていない。防災体制は最も緊急な課題だ。

総務課長 長田 一夫

提案していただいた、エリア分けして担当組員が安否確認を行う体制ですが、個人情報等の問題が多々ある中、各家を回り、ご理解をいただき、エリアマップ等に落とせるような状況を早く進めたい。

◎「里山庭園」構想について

前提となる森林整備は、林地台帳の作成が必要条件だ。地籍調査も進展していない。何をいつまでに達成するか計画性、予算や人員配置等の確保を具体化すべきだ。

生活産業課長 山崎 茂

林地台帳の整備を行い、加速して行きたい。地籍調査については、現状の役場体制では非常に厳しい状態であるが、今後、予算等を含めた中で検討して行きたい。

③ 保護犬・迷い犬対策について

他に誇る殺処分「ゼロ」の実績が

ら、さらに二歩進んで動物愛護センターを設置し、アニマルセラピーなどの新しい山中湖の魅力を出す政策に転換したらどうか。

環境衛生課長 天野 有三

今後とも動物愛護の観点から、人材育成を進め、動物ボランティアとの連携整備を強化して行きたい。

④ 村民の健康管理と「健康立村」構想について

村長は私に、健康立村の計画書提出を依頼し、その一部を既に届けてあるが、現場との調整が不十分だ。その場しのぎの対応ではなく、まず「健康立村」の宣言をするなど、真剣に取り組むべきだ。

つきいき健康課長 高村 高夫

各課連携のもと、その看板を掲げること目標に頑張っている。また、平成29年度に健康増進計画を改定するにあたり、その内容、理念などを盛り込み検討したい。

⑤ 交通弱者への助け合い対策について

これは、法律的な課題が多いと理解している。しかしチーム山中湖や新しい機構作りの中で、住民の相互協力に向けた意識改革を先行すべきだと思うが、如何か。

いきいき健康課長 高村 高夫

交通弱者への取り組みについて

は、住民みずから考え、自主的に活動できる組織として、チーム山中湖とも連携強化を図り、積極的に取り組んで行きたい。

◎ 小中学生の「里山留学制度」について

この提案につき、早速の先進地調査には敬意を表したい。しかし少子化問題対策は緊急を要し、里山留学の条件は、他の先進より数段上だと思う。「里山留学制度」の実現を加速していただきたい。

教育課長 権正 雅彦

早急に検討委員会を設置し、里山留学制度について取り組んで行きたい。

⑦ 入札制度改革について

98%を超過高止まりの落札率を改善するには、早急に予定価格の事前公表を取りやめ、さらに随意契約の複数見積りによる競争原理の徹底を行う決意の問題である。貴重な税金の無駄遣い防止の意味でも、村長や契約担当業務者の強い決意を再度伺う。

総務課長 長田 一夫

予定価格の公表については、十分検討した上で調整して行きたい。また、随意契約についても指摘のあったことについて十分理解し、随意契約理由の検証など、速やかな対応を取って行きたい。